

科目名	スポーツ運動学			担当者		
英文名	Sport Movement Theory					
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	1		専門基礎・必修			
授業形態	講義	科目ナンバー	SBR101		卒業認定方針との関連	⑧
【到達目標】						
スポーツ運動学の基礎的理論・事項及び研究知見について理解し、実戦場面（自らの運動経験）と絡めて説明できる。これらを踏まえて、スポーツ運動学の実践への応用について自らの運動経験と照合でき、実戦場면을想定して説明できる。						
【ルーブリック（学修の到達レベル）】						
学修内容		理想的な到達レベル		標準的な到達レベル		未到達レベル
スポーツ運動学の基礎的理論・事項について		理論を理解し、実践場면을想定して説明が可能		理論を教科書等の参照により、説明が可能		理解が不十分で、説明が不可能
スポーツ運動学の研究知見について		研究知見を利用し、実践場면을想定して説明が可能		研究知見に関わる資料等を利用して、説明が可能		研究知見の理解が不十分で、説明は不可能
スポーツ運動学の実践への応用について		理論・研究知見を踏まえて運動経験との照合ができ、実践場면을想定して説明が可能		理論・研究知見を踏まえて運動経験との照合しての説明が可能		理論・研究知見への理解が不十分で、説明が不可能
【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】						
第1回 スポーツ運動学とはどんな学問か 【到達目標】 科学の学問的特徴を理解する。 スポーツ運動学の学問的特徴を理解する。 【授業時間外学習】 配布プリントと教科書の授業内容と関連している該当箇所の熟読。(4.0hr)				第9回 運動構造の運動学的認識③動きの系統生について 【到達目標】 運動発生の順序性について理解する。 動きの類縁性について理解する。 【授業時間外学習】 配布プリントと教科書の授業内容と関連している該当箇所の熟読。(4.0hr)		
第2回 スポーツ種目の分類 【到達目標】 スポーツ種目は勝敗の決定方式によって三つの競技領域に分類できることを理解する。 【授業時間外学習】 配布プリントと教科書の授業内容と関連している該当箇所の熟読。(4.0hr)				第10回 運動の発生と習熟位相 【到達目標】 運動学習の位相論について理解する。 【授業時間外学習】 配布プリントと教科書の授業内容と関連している該当箇所の熟読。(4.0hr)		
第3回 運動技能の構造 【到達目標】 運動技能を構成する要因である「技術」「戦術」「体力」の関係について理解する。 【授業時間外学習】 配布プリントと教科書の授業内容と関連している該当箇所の熟読。(4.0hr)				第11回 運動技能の上達過程 【到達目標】 コツを掴む過程について理解する。 運動の意味付けについて理解する。 【授業時間外学習】 配布プリントと教科書の授業内容と関連している該当箇所の熟読。(4.0hr)		
第4回 運動における意識の特徴 【到達目標】 潜在意識の概念について理解する。 運動習熟のメカニズムについて理解する。 【授業時間外学習】 配布プリントと教科書の授業内容と関連している該当箇所の熟読。(4.0hr)				第12回 運動における空間の捉え方 【到達目標】 客観的事実と人間の感覚の特徴について理解する。 運動学における空間の概念について理解する。 【授業時間外学習】 配布プリントと教科書の授業内容と関連している該当箇所の熟読。(4.0hr)		
第5回 運動学における「コツ」と「カン」 【到達目標】 運動学的な「コツ」と「カン」の概念について理解する。 コツとカンの関係性について理解する。 【授業時間外学習】 配布プリントと教科書の授業内容と関連している該当箇所の熟読。(4.0hr)				第13回 運動における時間の捉え方 【到達目標】 客観的な時間について理解する。 運動学的な時間感覚について理解する。 【授業時間外学習】 配布プリントと教科書の授業内容と関連している該当箇所の熟読。(4.0hr)		
第6回 動感の言語化 【到達目標】 運動における「できる」と「わかる」を運動学的に理解する。 運動構造の認識について理解する。 【授業時間外学習】 配布プリントと教科書の授業内容と関連している該当箇所の熟読。(4.0hr)				第14回 できれば教えられるのか 【到達目標】 運動を覚える能力と教える能力の関係性について理解する。 【授業時間外学習】 配布プリントと教科書の授業内容と関連している該当箇所の熟読。(4.0hr)		
第7回 運動構造の運動学的認識①局面構造について 【到達目標】 運動形式（循環性運動、非循環性運動、運動組み合わせ）について理解する。 【授業時間外学習】 配布プリントと教科書の授業内容と関連している該当箇所の熟読。(4.0hr)				第15回 運動を指導する能力 【到達目標】 運動指導に必要な能力（観察・交信・代行・処方）について理解する。 【授業時間外学習】 配布プリントと教科書の授業内容と関連している該当箇所の熟読。(4.0hr)		
第8回 運動構造の運動学的認識②運動リズムについて 【到達目標】 運動学における運動リズムの概念について理解する。 運動のリズム化を促す要因（分節化、アクセント、時間の長短）について理解する。 【授業時間外学習】 配布プリントと教科書の授業内容と関連している該当箇所の熟読。(4.0hr)						
【学習上の留意点】						
スポーツ運動学における発生論、構造論、伝承論の領域を相互関連的に理解する必要があり、パワーポイント画面を写すだけでは表層的な理解に留まる恐れがある。自らメモをとるとともに、自己のスポーツやダンスの経験と照らし合わせながら理解することが最も重要である。また、書く力、表現する力といった総合的な能力を陶冶することが求められる。毎回の小レポートの記述を求める。さらに、スポーツ運動学では、一つの正解を覚える、または、一つの正解しかないという発想を捨てるのが求められる。						
【教科書・参考書など】						
教科書：配布プリント 参考書：「マイネル スポーツ運動学」K. マイネル著、金子明友訳（大修館書店） 「教師のための運動学」金子明友・監修 吉田茂、三木四郎・編（大修館書店） 「スポーツ運動学序説」朝岡正雄・著（不昧堂出版）、「スポーツ運動学」金子明友・著（明和出版）						
【成績評価方法】						
小レポート20％ 最終レポートもしくは試験80％ 試験の場合は、試験期間中に別途実施する。						

科目名	スポーツ運動学			担当者			
英文名	Sport Movement Theory						
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	1						専門基礎・必修
授業形態	講義	科目ナンバー	CBR105		卒業認定方針との関連		⑥
【到達目標】							
スポーツ運動学の基礎的理論・事項及び研究知見について理解し、実戦場面（自らの運動経験）と絡めて説明できる。これらを踏まえて、スポーツ運動学の実践への応用について自らの運動経験と照合でき、実戦場면을想定して説明できる。							
【ルーブリック（学修の到達レベル）】							
学修内容		理想的な到達レベル		標準的な到達レベル		未到達レベル	
スポーツ運動学の基礎的理論・事項について		理論を理解し、実践場면을想定して説明が可能		理論を教科書等の参照により、説明が可能		理解が不十分で、説明が不可能	
スポーツ運動学の研究知見について		研究知見を利用し、実践場면을想定して説明が可能		研究知見に関わる資料等を利用して、説明が可能		研究知見の理解が不十分で、説明は不可能	
スポーツ運動学の実践への応用について		理論・研究知見を踏まえて運動経験との照合ができ、実践場면을想定して説明が可能		理論・研究知見を踏まえて運動経験との照合しての説明が可能		理論・研究知見への理解が不十分で、説明が不可能	
【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】							
第1回 スポーツ運動学とはどんな学問か 【到達目標】 科学の学問的特徴を理解する。 スポーツ運動学の学問的特徴を理解する。 【授業時間外学習】 配布プリントと教科書の授業内容と関連している該当箇所の熟読。(4.0hr)				第9回 運動構造の運動学的認識③動きの系統生について 【到達目標】 運動発生順序性について理解する。 動きの類縁性について理解する。 【授業時間外学習】 配布プリントと教科書の授業内容と関連している該当箇所の熟読。(4.0hr)			
第2回 スポーツ種目の分類 【到達目標】 スポーツ種目は勝敗の決定方式によって三つの競技領域に分類できることを理解する。 【授業時間外学習】 配布プリントと教科書の授業内容と関連している該当箇所の熟読。(4.0hr)				第10回 運動の発生と習熟位相 【到達目標】 運動学習の位相論について理解する。 【授業時間外学習】 配布プリントと教科書の授業内容と関連している該当箇所の熟読。(4.0hr)			
第3回 運動技能の構造 【到達目標】 運動技能を構成する要因である「技術」「戦術」「体力」の関係について理解する。 【授業時間外学習】 配布プリントと教科書の授業内容と関連している該当箇所の熟読。(4.0hr)				第11回 運動技能の上達過程 【到達目標】 コツを掴む過程について理解する。 運動の意味付けについて理解する。 【授業時間外学習】 配布プリントと教科書の授業内容と関連している該当箇所の熟読。(4.0hr)			
第4回 運動における意識の特徴 【到達目標】 潜在意識の概念について理解する。 運動習熟のメカニズムについて理解する。 【授業時間外学習】 配布プリントと教科書の授業内容と関連している該当箇所の熟読。(4.0hr)				第12回 運動における空間の捉え方 【到達目標】 客観的事実と人間の感覚の特徴について理解する。 運動学における空間の概念について理解する。 【授業時間外学習】 配布プリントと教科書の授業内容と関連している該当箇所の熟読。(4.0hr)			
第5回 運動学における「コツ」と「カン」 【到達目標】 運動学的な「コツ」と「カン」の概念について理解する。 コツとカンの関係性について理解する。 【授業時間外学習】 配布プリントと教科書の授業内容と関連している該当箇所の熟読。(4.0hr)				第13回 運動における時間の捉え方 【到達目標】 客観的な時間について理解する。 運動学的な時間感覚について理解する。 【授業時間外学習】 配布プリントと教科書の授業内容と関連している該当箇所の熟読。(4.0hr)			
第6回 動感の言語化 【到達目標】 運動における「できる」と「わかる」を運動学的に理解する。 運動構造の認識について理解する。 【授業時間外学習】 配布プリントと教科書の授業内容と関連している該当箇所の熟読。(4.0hr)				第14回 できれば教えられるのか 【到達目標】 運動を覚える能力と教える能力の関係性について理解する。 【授業時間外学習】 配布プリントと教科書の授業内容と関連している該当箇所の熟読。(4.0hr)			
第7回 運動構造の運動学的認識①局面構造について 【到達目標】 運動形式（循環性運動、非循環性運動、運動組み合わせ）について理解する。 【授業時間外学習】 配布プリントと教科書の授業内容と関連している該当箇所の熟読。(4.0hr)				第15回 運動を指導する能力 【到達目標】 運動指導に必要な能力（観察・交信・代行・処方）について理解する。 【授業時間外学習】 配布プリントと教科書の授業内容と関連している該当箇所の熟読。(4.0hr)			
第8回 運動構造の運動学的認識②運動リズムについて 【到達目標】 運動学における運動リズムの概念について理解する。 運動のリズム化を促す要因（分節化、アクセント、時間の長短）について理解する。 【授業時間外学習】 配布プリントと教科書の授業内容と関連している該当箇所の熟読。(4.0hr)							
【学習上の留意点】							
スポーツ運動学における発生論、構造論、伝承論の領域を相互関連的に理解する必要があり、パワーポイント画面を写すだけでは表層的な理解に留まる恐れがある。自らメモをとるとともに、自己のスポーツやダンスの経験と照らし合わせながら理解することが最も重要である。また、書く力、表現する力といった総合的な能力を陶冶することが求められる。毎回の小レポートの記述を求める。さらに、スポーツ運動学では、一つの正解を覚える、または、一つの正解しかないという発想を捨てることが求められる。							
【教科書・参考書など】							
教科書：配布プリント 参考書：「マイネル スポーツ運動学」K. マイネル著、金子明友訳（大修館書店） 「教師のための運動学」金子明友・監修 吉田茂、三木四郎・編（大修館書店） 「スポーツ運動学序説」朝岡正雄・著（不昧堂出版）、「スポーツ運動学」金子明友・著（明和出版）							
【成績評価方法】							
小レポート20% 最終レポートもしくは試験80% 試験の場合は、試験期間中に別途実施する。							

科目名	スポーツ技術論（スポーツ技術トレーニングを含む）			担当者		
英文名	Technique in Sports					
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2		専門・必修			
授業形態	講義	科目ナンバー	SMR201		卒業認定方針との関連	⑧
【到達目標】						
本講義では、まず運動技能を構成する中核的因子である技術を、戦術・体力と関連させながら概観する。そして、運動が「できる」ことは、技術（コツ）を身につけることであり、コツの発生にはいくつかの階層（形成位相）があることや動きを「覚える人」と「教える人」にはそれぞれ「身体知」が必要であることを理解する。さらに、トレーニング過程全体の中で、「技術」に目を向けることや技術トレーニングの必要性を確認していく。						
【ルーブリック（学修の到達レベル）】						
学修内容		理想的な到達レベル		標準的な到達レベル		未到達レベル
スポーツ技術の概念について		スポーツにおける技術・戦術・体力の関係について、具体的な動きかたから詳細に説明できる。		スポーツにおける技術・戦術・体力の関係について、スポーツ運動学的な視点から理解し、説明できる。		理解が不十分で説明できない。
スポーツ技術・コツの習得について		動感形成位相におけるさまざまな習得様相を説明でき、その知識を実践においても活用できる。		スポーツ技術・コツの習得について、動感形成位相の考え方から理解し、説明できる。		理解が不十分で説明できない。
スポーツ技術トレーニングの方法について		スポーツ技術トレーニングの一般的考え方を理解し、専門種目における数多くの新たな指導法を考案して説明できる。		スポーツ技術トレーニングの一般的考え方を理解し、専門種目における具体的方法について説明できる。		理解が不十分で説明できない。
【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】						
第1回 スポーツ技術とは 【 到達目標 】 (1) 技術の概念について理解する。 (2) スポーツ技術の概念について理解する。 【授業時間外学習】 授業で配布された資料を見直ししながら、次回の授業の準備を進める。(4.0hr)				第9回 技術の伝承と促発身体知 【 到達目標 】 (1) 技術の伝承と促発身体知の関連を理解する。 (2) 促発身体知の概要を理解する。 【授業時間外学習】 授業で配布された資料を見直ししながら、次回の授業の準備を進める。(4.0hr)		
第2回 スポーツ技術の変遷 【 到達目標 】 (1) スポーツ技術の歴史の変遷を理解する。 (2) スポーツ技術の必要性を理解する。 【授業時間外学習】 授業で配布された資料を見直ししながら、次回の授業の準備を進める。(4.0hr)				第10回 技術トレーニングの前提 【 到達目標 】 (1) 技術トレーニングの前提を理解する。 (2) トレーニングの原則を理解する。 【授業時間外学習】 授業で配布された資料を見直ししながら、次回の授業の準備を進める。(4.0hr)		
第3回 競技力の構造 【 到達目標 】 (1) 競技力の構造について理解する。 (2) 技術・戦術・体力の関連について理解する。 【授業時間外学習】 授業で配布された資料を見直ししながら、次回の授業の準備を進める。(4.0hr)				第11回 初級者の技術トレーニング1 【 到達目標 】 (1) 初級者の技術トレーニングの概要を理解する。 (2) 初級者の技術トレーニングの内容・方法を理解する①。 【授業時間外学習】 授業で配布された資料を見直ししながら、次回の授業の準備を進める。(4.0hr)		
第4回 スポーツ技術と動感身体知 【 到達目標 】 (1) スポーツ技術と動感身体知の関連を理解する。 (2) 動感身体知の具体的例証について理解する。 【授業時間外学習】 授業で配布された資料を見直ししながら、次回の授業の準備を進める。(4.0hr)				第12回 初級者の技術トレーニング2 【 到達目標 】 (1) 初級者の技術トレーニングの内容・方法を理解する②。 (2) 初級者の技術トレーニングと課題を理解する。 【授業時間外学習】 授業で配布された資料を見直ししながら、次回の授業の準備を進める。(4.0hr)		
第5回 動感身体知の形成位相1 【 到達目標 】 (1) 動感身体知の形成位相の概要を理解する。 (2) 原志向位相、探索位相、偶発位相について理解する。 【授業時間外学習】 授業で配布された資料を見直ししながら、次回の授業の準備を進める。(4.0hr)				第13回 中級者の技術トレーニング 【 到達目標 】 (1) 中級者の技術トレーニングの概要を理解する。 (2) 中級者の技術トレーニングの内容・方法を理解する。 【授業時間外学習】 授業で配布された資料を見直ししながら、次回の授業の準備を進める。(4.0hr)		
第6回 動感身体知の形成位相2 【 到達目標 】 (1) 形態化位相、自在位相について理解する。 (2) 形成位相と動きの獲得について理解する。 【授業時間外学習】 授業で配布された資料を見直ししながら、次回の授業の準備を進める。(4.0hr)				第14回 上級者の技術トレーニング 【 到達目標 】 (1) 上級者の技術トレーニングの概要を理解する。 (2) 上級者の技術トレーニングの内容・方法を理解する。 【授業時間外学習】 授業で配布された資料を見直ししながら、次回の授業の準備を進める。(4.0hr)		
第7回 技術とコツ 【 到達目標 】 (1) 技術とコツの関連について理解する。 (2) コツ身体知の概要について理解する。 【授業時間外学習】 授業で配布された資料を見直ししながら、次回の授業の準備を進める。(4.0hr)				第15回 トレーニングにおけるスポーツ技術 【 到達目標 】 (1) トレーニング内容の中核がスポーツ技術であることを理解する。 (2) 各自の今後の技術トレーニングの展望と課題を明確にする。 【授業時間外学習】 授業から得た知見を実際のトレーニング場面に活かせるよう準備する。(4.0hr)		
第8回 技術の習得と創発身体知 【 到達目標 】 (1) 技術の習得と創発身体知の関連を理解する。 (2) 創発身体知の概要を理解する。 【授業時間外学習】 授業で配布された資料を見直ししながら、次回の授業の準備を進める。(4.0hr)						
【学習上の留意点】 パワーポイントを用いて講義内容の要点を示し、口頭でその詳細を説明する。また、必要に応じて映像資料も提示し、具体的例証を確認しながら理解を深めていく。本講義を理解するためには、講義内容を常に各自の運動経験や専門スポーツ種目に置き換え、具体例を思い浮かべながら受講することが大切である。ほぼ毎時間、講義内容に関する小レポートを作成する。						
【教科書・参考書など】 教科書は特に指定しない。適宜、資料を配布する。 <参考文献> 「選手とコーチのためのスポーツ技術のトレーニング」M.グロッター/A.ノイマイヤー（大修館書店） 「運動学講義」金子、朝岡編（大修館書店）「身体知の形成 上・下」金子明友（明和出版）等						
【成績評価方法】 毎回の小レポートの達成度 70% ・ 最終レポートの達成度 30%						

科目名	運動技能評価法			担当者			
英文名	Theory of Evaluation in Motor Skill						
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	3		専門・選択				
授業形態	講義	科目ナンバー	SME309		卒業認定方針との関連	⑧	
【到達目標】							
運動技能は「ある動きができる能力」と解され、スポーツ競技に置き換えると「競技力」となる。競技力を構成する因子は多岐に渡り、その評価にはさまざまな方法がとられている。本講義では、運動技能（競技力）の構造をまず明らかにし、運動技能を発生運動学の知見を用いて評価することがトレーニング過程全体で重要な位置を占めるものであることを理解していく。							
【ルーブリック（学修の到達レベル）】							
学修内容		理想的な到達レベル		標準的な到達レベル		未到達レベル	
運動の評価法の違いについて		数値的評価と動感評価について、その違いを具体的な事例をもとに詳細に説明できる。		数値的評価と動感評価の方法の違いを理解し、説明できる。		理解が不十分で説明できない。	
発生運動学的な評価内容について		多岐にわたる発生運動学的な評価内容について、具体的な事例をもとに詳細に説明できる。		主な評価対象となる動感形成位相と動感創発身体知の概要について理解し、説明できる。		理解が不十分で説明できない。	
運動指導者に必要な評価方法について		身体知テストの方法と有益性を十分に理解し、実践できる。		観察と交信による動きかたの評価について理解し、説明できる。		理解が不十分で説明できない。	
【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】							
第1回 運動技能の構造				第9回 形態化身体知（コツとカン）とその評価			
【到達目標】 (1)運動技能の構造を理解する。 (2)運動技能とその評価の必要性を理解する。				【到達目標】 (1)形態化身体知の概要について理解する。 (2)形態化身体知の具体的例証について理解する。			
【授業時間外学習】 授業で配布された資料を見直ししながら、次回の授業の準備を進める。(4.0hr)				【授業時間外学習】 授業で配布された資料を見直ししながら、次回の授業の準備を進める。(4.0hr)			
第2回 競技力検査の方法				第10回 動感促発身体知の構造			
【到達目標】 (1)一般的な競技力検査の方法を理解する。 (2)競技力検査によって得られる結果の有効性と限界を理解する。				【到達目標】 (1)動感促発身体知の構造について理解する。 (2)動感促発身体知の具体的例証について理解する。			
【授業時間外学習】 授業で配布された資料を見直ししながら、次回の授業の準備を進める。(4.0hr)				【授業時間外学習】 授業で配布された資料を見直ししながら、次回の授業の準備を進める。(4.0hr)			
第3回 数値化するテスト法1				第11回 指導者の観察能力と動きの評価			
【到達目標】 (1)体力テストの内容と方法を理解する。 (2)体力テストの有効性と課題を理解する。				【到達目標】 (1)指導者の観察能力の必要性について理解する。 (2)動感身体知の観察方法と評価について理解する。			
【授業時間外学習】 授業で配布された資料を見直ししながら、次回の授業の準備を進める。(4.0hr)				【授業時間外学習】 授業で配布された資料を見直ししながら、次回の授業の準備を進める。(4.0hr)			
第4回 数値化するテスト法2				第12回 指導者の交信能力と動きの評価			
【到達目標】 (1)技能を数値化するテストの内容と方法を理解する。 (2)技能を数値化するテストの有効性と課題を理解する。				【到達目標】 (1)指導者の交信能力の必要性について理解する。 (2)動感身体知の交信方法と評価について理解する。			
【授業時間外学習】 授業で配布された資料を見直ししながら、次回の授業の準備を進める。(4.0hr)				【授業時間外学習】 授業で配布された資料を見直ししながら、次回の授業の準備を進める。(4.0hr)			
第5回 発生運動学的な評価とは				第13回 創発分析と身体知テスト			
【到達目標】 (1)発生運動学の概要を理解する。 (2)動感身体知とその評価について理解する。				【到達目標】 (1)創発分析の方法と必要性について理解する。 (2)創発分析能力と身体知テストの関係を理解する。			
【授業時間外学習】 授業で配布された資料を見直ししながら、次回の授業の準備を進める。(4.0hr)				【授業時間外学習】 授業で配布された資料を見直ししながら、次回の授業の準備を進める。(4.0hr)			
第6回 動きの形成位相と評価				第14回 身体知テストと運動技能評価			
【到達目標】 (1)動感身体知の形成位相について確認・理解する。 (2)それぞれの形成位相における技能評価について理解する。				【到達目標】 (1)身体知テストの方法を理解する。 (2)身体知テストと運動技能評価の関係を理解する。			
【授業時間外学習】 授業で配布された資料を見直ししながら、次回の授業の準備を進める。(4.0hr)				【授業時間外学習】 授業で配布された資料を見直ししながら、次回の授業の準備を進める。(4.0hr)			
第7回 動感創発身体知の構造				第16回 指導者と運動技能評価力			
【到達目標】 (1)動感創発身体知の構造について理解する。 (2)動感創発身体知の具体的例証について理解する。				【到達目標】 (1)運動技能を評価できる指導者の必要性を理解する。 (2)トレーニング現場における運動技能評価の必要性を理解する。			
【授業時間外学習】 授業で配布された資料を見直ししながら、次回の授業の準備を進める。(4.0hr)				【授業時間外学習】 授業から得た知見を実際のトレーニング場面に活かせるよう準備する。(4.0hr)			
第8回 始原身体知とその評価							
【到達目標】 (1)始原身体知の概要について理解する。 (2)始原身体知の具体的例証について理解する。							
【授業時間外学習】 授業で配布された資料を見直ししながら、次回の授業の準備を進める。(4.0hr)							
【学習上の留意点】							
パワーポイントを用いて講義内容の要点を示し、口頭でその詳細を説明する。また、必要に応じて映像資料も提示し、具体的例証を確認しながら理解を深めていく。本講義を理解するためには、講義内容を常に各自の運動経験や専門スポーツ種目に置き換え、具体例を思い浮かべながら受講することが大切である。ほぼ毎時間、講義内容に関する小レポートを作成する。							
【教科書・参考書など】							
教科書は特に指定しない。適宜、資料を配布する。 <参考文献> 「マイネル スポーツ運動学」K.マイネル（大修館書店） 「わがの伝承」金子明友（明和出版） 「身体知の形成 上・下」金子明友（明和出版） 等							
【成績評価方法】							
毎回の小レポートの達成度 70% ・ 最終レポートの達成度 30%							

科目名	スポーツ科学論演習			担当者		
英文名	Seminar in Sport Sciences					
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	3		専門・必修			
授業形態	演習	科目ナンバー	SMR401	卒業認定方針との関連	⑥⑧	
【到達目標】						
スポーツ技術論で扱った内容を詳細に検討することにより、動きの習得と定着に必要な事柄を整理し、発生論的視点からの検討を試みる。そこから、動きを身につけるための具体的方法論についての理解を深める。さらに、その過程で最も重要となる観察力のトレーニングについても理解していく。						
【ルーブリック（学修の到達レベル）】						
学修内容		理想的な到達レベル		標準的な到達レベル		未到達レベル
発生運動学の知見について		発生運動学の考え方を実際の指導場面に照らし合わせて説明できる。		発生運動学の基本的考え方の有益性を理解し、説明できる。		発生運動学の考え方が理解できない。
コツとカンについて		コツとカンの表裏一体の関係について、具体的事例をもとに説明できる。		コツとカンの概念について理解し、説明できる。		コツとカンの違いが理解できない。
動感観察について		動きかたの観察実践から、その動感様相について説明できる。		動感観察の方法について理解し、説明できる。		動感観察の概念や方法が理解できない。
【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】						
第1回 スポーツ技術の構造			第9回 観察とは？			
【 到達目標 】 (1) スポーツ技術の構造について再確認する。 (2) スポーツ技術に関する具体的例証を検討し、理解する。			【 到達目標 】 (1) 観察の概念について再確認する。 (2) 発生運動学的な観察とその具体的例証について再確認する。			
【授業時間外学習】 (2) についてのレポートをまとめる。(4.0hr)			【授業時間外学習】 (2) についてのレポートをまとめる。(4.0hr)			
第2回 スポーツ技術の習得			第10回 観察の実際1			
【 到達目標 】 (1) スポーツ技術の習得に関するさまざまな課題を理解する。 (2) スポーツ技術の習得に関する具体的例証を検討し、理解する。			【 到達目標 】 (1) 実際の動きの観察から、観察方法を検討する。 (2) 日常生活での動きの観察とその具体的例証について理解する。			
【授業時間外学習】 (2) についてのレポートをまとめる。(4.0hr)			【授業時間外学習】 (2) についてのレポートをまとめる。(4.0hr)			
第3回 発生運動学に基づく動きの指導			第11回 観察の実際2			
【 到達目標 】 (1) 発生運動学について再確認する。 (2) 動きの指導に関する具体的例証を検討し、理解する。			【 到達目標 】 (1) 実際の動きの観察から、観察方法を検討する。 (2) スポーツでの動きの観察とその具体的例証について理解する。			
【授業時間外学習】 (2) についてのレポートをまとめる。(4.0hr)			【授業時間外学習】 (2) についてのレポートをまとめる。(4.0hr)			
第4回 コツとは？			第12回 選手と観察能力			
【 到達目標 】 (1) 動きのコツについて再確認する。 (2) コツの具体的例証を検討し、理解する。			【 到達目標 】 (1) 選手にとっての観察能力の必要性を理解する。 (2) 選手の観察能力の具体的例証を検討し、理解する。			
【授業時間外学習】 (2) についてのレポートをまとめる。(4.0hr)			【授業時間外学習】 (2) についてのレポートをまとめる。(4.0hr)			
第5回 コツの習得			第13回 指導者と観察能力			
【 到達目標 】 (1) コツの習得に関するさまざまな課題を理解する。 (2) コツの習得に関する具体的例証を検討し、理解する。			【 到達目標 】 (1) 指導者にとっての観察能力の必要性を理解する。 (2) 指導者の観察能力の具体的例証を検討し、理解する。			
【授業時間外学習】 (2) についてのレポートをまとめる。(4.0hr)			【授業時間外学習】 (2) についてのレポートをまとめる。(4.0hr)			
第6回 カンとは？			第14回 指導者の促発能力			
【 到達目標 】 (1) 動きのカンについて再確認する。 (2) カンの具体的例証を検討し、理解する。			【 到達目標 】 (1) 指導者の促発能力の必要性を理解する。 (2) 観察、交信、代行の具体的例証を検討し、理解する。			
【授業時間外学習】 (2) についてのレポートをまとめる。(4.0hr)			【授業時間外学習】 (2) についてのレポートをまとめる。(4.0hr)			
第7回 カンの習得			第15回 促発能力の養成方法			
【 到達目標 】 (1) 動きのカンについて再確認する。 (2) カンの具体的例証を検討し、理解する。			【 到達目標 】 (1) 促発能力の必要性を理解する。 (2) 促発能力の具体的養成方法について理解する。			
【授業時間外学習】 (2) についてのレポートをまとめる。(4.0hr)			【授業時間外学習】 授業で得た発生運動学的な知見を動きかたの習得や指導に活かせるよう準備する。(4.0hr)			
第8回 コツとカンの反転						
【 到達目標 】 (1) コツとカンの反転化現象について理解する。 (2) コツとカンの反転化現象の具体的例証を分析する。						
【授業時間外学習】 (2) についてのレポートをまとめる。(4.0hr)						
【学習上の留意点】						
スポーツ技術・身体知・コツ・カン・観察能力などに関して、実際の動きの場面に照らし合わせながら検討していく授業である。多くの例証から、発生運動学的知見が指導現場に有用であることを確認するため、常に「動きの発生」に関する問題意識を持って参加してほしい。毎時間、小レポートを作成する。						
【教科書・参考書など】						
教科書は特に指定しない。適宜、資料を配布する。 <参考文献> 「マイネル スポーツ運動学」K.マイネル（大修館書店） 「わざの伝承」金子明友（明和出版） 「身体知の形成 上・下」金子明友（明和出版） 等						
【成績評価方法】						
毎回の小レポートの達成度 70% ・ 最終レポートの達成度 30%						

科目名	スポーツ運動分析法			担当者		
英文名	Sport Movement Analysis					
単位数	2	科目区分・必修 ／ 選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	4		専門・選択			
授業形態	講義	科目ナンバー	SME320		卒業認定方針との関連	⑧
【到達目標】						
指導対象となるスポーツ運動（その運動形態や運動達成力）を知るためには各種の分析方法が用いられるが、分析する対象とねらいに応じて最適な分析方法を選択することが重要である。スポーツ運動分析の分析方法には、量的な方法と質的な方法があり、量的な方法が定量分析、質的な方法が構造化分析（定性分析）である。この授業では、定量分析は主としてバイオメカニクス的分析法について、構造化分析は主としてモルフォロジー的分析について講義、演習を行う。						
【ルーブリック（学修の到達レベル）】						
	学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル		
	運動観察における運動分析の必要性の理解	運動観察に必要な分析法の説明ができる	資料を用いて運動分析の説明ができる	運動分析の理解が不十分で説明できない		
	指導に生かすための分析結果の見方の理解	分析結果から指導に結びつけることができる	資料を用いて指導方法を説明できる	分析結果の理解が不十分で指導に結びつかない		
	運動観察結果から指導方法を理解する	観察結果から指導方法を説明できる	観察結果から資料を用いて指導方法を説明できる	観察結果の理解が不十分で指導法が理解できない		
【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】						
第1回 ガイダンス			第9回 班毎の運動分析課題と実験計画			
【到達目標】 運動に関わるものにとつて、対象となる運動を分析することの重要性と、分析から実践の場へフィードバックすることの必要性を理解する。			【到達目標】 グループで話し合いを行い、自分達が分析したい課題を見だし、実験計画を立案する。			
【授業時間外学習】 これまでのスポーツ運動学の授業などを復習し、運動修正を理解する。(4.0hr)			【授業時間外学習】 いろいろな観点での分析の仕方を理解し、一つの指導までの課程を理解する。(4.0hr)			
第2回 運動観察と運動分析			第10回 班毎の実験撮影			
【到達目標】 運動分析法の代表的な方法には、バイオメカニクス的な分析方法とモルフォロジー的な分析方法があり、それぞれの違いと観点や問題点を理解する。			【到達目標】 実際に実験を行い、連続写真を撮影する。			
【授業時間外学習】 自分の専門種目における、バイオメカニクス的分析と運動学的な分析の事例を調べる。(4.0hr)			【授業時間外学習】 自分たちの分析に関して、撮影前に仮説を立て実験時の観察視点をつくる。(4.0hr)			
第3回 実際の指導現場と運動分析の係わり			第11回 班毎の実験結果と分析			
【到達目標】 運動指導者にとって必要な「見抜き」ための方法と、運動分析の必要性について理解する。			【到達目標】 撮影した連続写真をグループで役割分担して分析し、問題点修正までの一連の手順を確認する。			
【授業時間外学習】 各自の専門種目におけるトップアスリートの分析例を調べる。(4.0hr)			【授業時間外学習】 各班で話し合った分析に関して、役割分担を決めた内容を分析しレポートを作成する。(4.0hr)			
第4回 トップレベルと運動分析の現状			第12回 班毎のまとめと発表			
【到達目標】 トップレベルのアスリートのサポートとして、野球、陸上、水泳競技などを例に運動分析の現状を説明し、その重要性を理解する。			【到達目標】 分析結果を基に、バイオメカニクス的な分析から運動指導現場への指導方法を導き出す過程を実践し、発表する。			
【授業時間外学習】 過去の運動分析に関する研究について調べる。(4.0hr)			【授業時間外学習】 各班の発表を含め、いろいろな観点を理解し、それを各班、各個人の分析方法へ還元させ考察する。(4.0hr)			
第5回 運動分析の研究事例			第13回 球技のゲーム分析について			
【到達目標】 運動分析の研究例を説明し、その方法を理解する。			【到達目標】 チームスポーツでは、個々の運動を分析する運動分析と、ゲームを一つの対象として捉えたときのゲーム分析がある。そのゲーム分析の観点や結果を、どう指導現場にフィードバックするかを理解する。			
【授業時間外学習】 運動分析の必要性と具体例を、トップアスリート、研究、学校体育のそれぞれに関してまとめる。(4.0hr)			【授業時間外学習】 チームスポーツでの分析に関して、本時の授業を基に各々目での分析について考察する。(4.0hr)			
第6回 バイオメカニクス的運動分析法			第14回 ゲーム分析の仕方とゲームへのフィードバック			
【到達目標】 全員同一の連続写真を利用し、初心者の動作と未熟練者の動作分析をバイオメカニクス的な手法で分析し、その問題点を見抜き、そこから未熟練者への練習課題を導き出す手順と考え方を理解する。			【到達目標】 運動分析のまとめとして、バイオメカニクス的分析と運動学的な分析、そしてそのどちらも同様に指導現場で有効なものであることをまとめ、理解する。			
【授業時間外学習】 分析の仕方を理解し、課題である写真分析を仕上げ次回までにレポートを作成する。(4.0hr)			【授業時間外学習】 これまでの授業を基に、改めて運動観察の必要性を運動指導の観点からまとめる。(4.0hr)			
第7回 バイオメカニクス的運動実践			第15回 指導者に必要な運動観察の位置づけを再確認			
【到達目標】 各自が独自の観点で分析し、結論を導き出す。次に各班でそれぞれの発表を行い、意見交換をして班としての一つの結論を導き出す。さらに、それぞれの立場からの観点を確認し、共通点・相違点から班の共通理解としての結論を出す。			【到達目標】 教育実習や部活動での指導者として必要な運動観察、そこからの見抜き、そして運動修正というプロセスを理解し、あるべき指導者の像を理解する。			
【授業時間外学習】 今回の授業で班ごとに話し合った内容を踏まえ、自分の分析の観点を修正を行う。(4.0hr)			【授業時間外学習】 今後の各自の運動指導や教育実習を前提として、指導者に必要な観察能力とそれに必要な分析法をまとめ、理解する。(4.0hr)			
第8回 バイオメカニクス的運動分析成果発表（班ごと）						
【到達目標】 前回までに導き出した結論を各班の代表者が発表し、全員の共通理解を出す。他の班の考え方や自分たちとの相違点を質問等により理解し合う。						
【授業時間外学習】 共通の課題に対する各班の観点や分析方法の違いを理解し、分析方法を見直す。(4.0hr)						
【学習上の留意点】						
基本的に講義形式であるが、実際に運動分析をグループとして行う内容を含むため、積極的に自分の専門種目の立場からグループとしての活動や討議に参加することが自分の知識となる。最終的にいくつかの運動の分析を実施するが、他のグループの実験も自分の知識として有効であるため、他の分析にも興味を持ち討議することが重要となる。						
【教科書・参考書など】						
特になし。						
【成績評価方法】						
授業中に2回のレポート課題を提出することになる。それぞれ30%で2つで60%、そして各班でまとめた内容とプレゼンの内容の評価30%、毎回の授業での取り組み10%として評価する。						

科目名	スポーツ技術論特講		担当者		
英文名	Sport Technique				
標準履修年次	1年	単位	2単位	区分	特講・選択
【授業概要・方法】					
<p>運動技能を構成する中核的因子である技術を、戦術・体力と関連させながら概観する。そして、運動が「できる」ことは、技術（コツ）を身につけることであり、コツの発生にはいくつかの階層（形成位相）があることや動きを「覚える人」と「教える人」にはそれぞれ「身体知」が必要であることを理解する。パワーポイントや必要に応じて映像資料も提示し、具体的例証を確認しながら理解を深めていく。</p>					
【授業計画】					
1. スポーツ技術の変遷			9. 創発身体知（洗練化身体知）と技術		
2. スポーツ技術の概念			10. 創発達成能力と創発分析能力		
3. スポーツ種目と競技力の構造			11. 促発身体知（観察能力）と技術		
4. 身体知と技術			12. 促発身体知（交信能力）と技術		
5. 動きの形成位相と技術①			13. 促発身体知（代行能力）と技術		
6. 動きの形成位相と技術②			14. 促発身体知（処方能力）と技術		
7. 創発身体知（始原身体知）と技術			15. 技術の伝承		
8. 創発身体知（形態化身体知）と技術					
【到達目標】					
<p>スポーツ技術概念や史的変遷からその必要性を理解する。また、技術の底流となる「動感身体知」の存在を確認でき、その具体的例証から、技術の伝承に関する考え方を理解する。</p>					
【受講上の留意点】					
<p>本講義を理解するためには、講義内容を常に各自の運動経験や専門スポーツ種目に置き換え、具体例を思い浮かべながら受講することが大切である。</p> <p>※ハイフレックス型対応院生については、ハイフレックス型で対応する。</p>					
【授業時間外学修】					
<p>発生運動学を基にしたこの授業は、大学で学んだ運動学に関する基礎知識が必要である。運動学の用語や知識について常に「自分の言葉」で説明できるよう準備しておかなければならない。</p>					
【教科書・参考書など】					
<p>教科書は特に指定しない。適宜、資料を配布する。</p> <p><参考文献> 「マイネル スポーツ運動学」K.マイネル（大修館書店） 「わざの伝承」金子明友（明和出版） 「身体知の形成 上・下」金子明友（明和出版） 等</p>					
【成績評価方法】					
<p>毎回の授業での理解度（小レポート）70%、最終レポートの達成度30%</p>					
【関連科目】					
<p>スポーツ科学特演Ⅰ、スポーツ科学特演Ⅱ、スポーツ科学特演Ⅲ、スポーツ科学特演Ⅳ スポーツ運動発生論特講</p>					